

令和4年度 研究推進計画

廿日市市立宮内小学校

I 研究主題

自ら考え学び高め合う姿を目指して

～協働的な学びのある授業づくり～

II 主題設定の理由

これからの時代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」や、先行きが不透明な「予測困難な時代」と言われている。このような、急激に変化する時代を生き抜くために、児童は自分のよさや可能性を認識するとともに、自分とはちがう価値観をもった他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く力が必要とされている。

本校では令和元年度より、研究主題を「学ぶ楽しさをともに実感する児童の育成」とし、算数科を中心に、ユニバーサルデザイン化された授業づくりに取り組んできた。

3年間の取組により、児童の学習満足度を見るアンケートでは92%の児童が「授業が楽しい」「わかる」と回答し、学習に課題のある児童を含め全員が分かることを目指すユニバーサルデザイン化した算数科授業の成果が見られた。一方で、教員アンケートでは、「算数科授業で発問の精選や問い返しを意識した授業ができた…64%」、「算数科授業で児童同士が関わり合う授業ができた…55%」と低かった。教員アンケートの結果から、意図的な発問や問い返しをするための単元全体を見通した授業構成や、児童同士が学び合う授業づくりに課題があることがわかり、目指す児童の姿に到達するための単元構成の工夫や、児童同士が学び合い新たな発見や発想が生まれる協働的な学びの必要性が明らかになった。

これらの実態を踏まえ、今年度は、研究主題を「自ら考え学び高め合う姿をめざして」とし、副題を「協働的な学びのある授業」とした。取組の中心として、単元を通して育てたい資質・能力を明確にした上で、児童自らが考え動き出したいようになるように発問の精選を行っていく。この学ぶ必然性のある問いに対して児童は主体的に取り組み、考えたことをICTを活用してより多くの児童と考えを共有したり活動したりすることで、多様な考えが組み合わさり、自ら考え学び高め合う児童の姿を目指したいと考える。

そして、本研究を通して、本校の教育目標である「自ら考え学び合い心豊かにたくましく生きる児童の育成」の実現を目指したい。

Ⅲ 本校が目指す児童の姿

目指す児童の姿	具体的な児童の姿
自ら考え学び合う姿	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと知りたい ・課題を解決したい ・また、やりたい ・友達と考えると分かった、できた ・友達と学ぶと楽しい
よさを伸ばし合う姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に分かってもらえてうれしい ・自分と違う考えの友達がいた ・友達の考えから新しい考えが生まれた
ねばり強く努力する姿	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは分からなかったけど、最後にはできた ・もっと難しい問題にも挑戦したい

Ⅳ 基本的な考え方

1 自ら学び高め合う児童とは

わかった・できた・またやりたい、楽しさを感じる姿

	具体的な児童の姿
自ら学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって、粘り強く最後まで取り組めた ・学びを振り返り、新しい課題が生まれたり生活に生かしたりすることができた 等
高め合う	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えから分かった ・友達に分かってもらうために、様々な方法で説明し考えが伝わった ・友達と活動・対話をして新しい発見ができたり新しい考えが生まれた 等

2 協働的な学びとは

探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する学び

参考：中央教育審議会R3「第1回個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会 参考資料」

3 研究内容と具体的な取り組み

(1) 単元構成の工夫

- ・単元を通して育成したい児童の資質・能力の明確化
- ・目指す児童の姿に到達するための単元計画の作成

(2) 協働し主体的に取り組む授業構成

- ・ICTを活用した協働的な学びを仕組む場面の導入

ICTを活用する主な学習場面

	収集	分類	吟味	結論
インターネット	○			
スタディーネット	○	○	○	○
ジャムボード	○	○	○	○
スライド				○
スプレッドシート				○
動画・カメラ	○	○	○	○

(3) 教師のファシリテート力の向上

- ・ 目指す児童の姿につながる，児童が考え動き出したくなる発問
- ・ 児童の言葉をつなぐ
- ・ 言葉の厳選 授業の活動の主体 教師1：児童9を目指す

(4) 振り返りの充実

- ・ 知識のつながりの意識化や，次の学びや生活に生かすための振り返り
- ㊦ 分かったこと（そういうことか。）
- ㊧ 頑張ったこと（できるようになるために～～したよ。）
- ㊨ 友達の考え（○○君の考えがすごい！だって・・・。）
- ㊩ もっと学びたいこと，知りたいこと（だったら，こんなこともできそうだ。）
- ㊪ 日常生活に生かすこと（なるほど，前に習った～～とつながっている。生活の中の～～に使える考えだ。）

4 協働的な学びを支えるための取り組み

(1) 言語の力の育成

NIEを行うことで読み取る力，書く力の育成を図る。

(2) ICTの基本的な力の育成

- ・ スキルの育成（タイピング等）
- ・ モラルの育成

V 研究の仮説

目指す児童の姿を明確にした単元構想から，児童が主体的に学びたくなる発問を行い，ICTを活用した協働的な学びのある授業を行えば，自ら考え学び高め合う児童を育成することができるであろう。

VI 検証の指標

検証の視点	方法	達成目標
協働的に学び合う授業ができたか	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
	教員へのアンケート	肯定的評価 80%以上
教科において児童の理解を深めることができたか。	標準学力調査	全国平均より国語・算数科共に上回る

VII 研究の計画

月日	内 容 (仮)
4 / 5 (月)	研究計画立案, 研究内容の共通理解
4 / 6 (火)	協働的な学びにおける ICT の活用
5 / 12 (木)	研究授業 (研究主任)
6 / 16 (木)	研究授業
7 / 28 (木)	授業づくり
9 / 16 (金)	野坂校区公開研究会
2 / 16 (木)	次年度の研究について

VIII 研究の構想図

